

題目月待供養板碑



- 〔指定年月日〕昭和五七年十一月一日
- 〔種別〕有形文化財（古文書）
- 〔名称〕題目月待供養板碑
- 〔点数〕一基
- 〔所有者等〕個人
- 〔所在地等〕大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

## 題目月待供養板碑

長さ八一・三cm、最大幅二八cm、上・下部に小欠損、表面に多少の風化はみられるものの、ほぼ完形の板碑である。

造立は宝徳三年（一四五一）一月二三日で、日蓮宗が本尊とする大曼荼羅の題目を主尊とし、「奉待月供養逆修」と願文を刻み、正尊・助六・平内四郎・弥平次・平内五郎の五名の一結衆の名を記す、法華題目と月待供養とを一体化したいわゆる「一結衆板碑」である。

これは日蓮宗の宗派と当時の土俗的な民俗信仰であった月待行事とが結びついた極めて珍しい例で、周辺はもとより都域内にもその例を見ないものである。

この板碑は室町時代の杉並地域における日蓮宗徒の集団としての存在を伝えるものであると同時に、その布教活動が月待という民間信仰行事を取り入れて行われていたことをうかがわせ、その民俗的な宗教行事の消息を知らせる資料となっている。

### 【文化財所在地】

